

事業の実施内容及び実績に関する報告書（東日本大震災避難者転居支援事業）

1 地域の課題

- 東日本大震災による避難者の多くが、周りに頼る人がいないことや金銭的に十分でない環境の中で、避難所から出て生活を始めることや転居先の地域での生活について不安を抱えている。避難所を設置している東京都、受け入れを行う地域の諸機関・団体として、避難者が円滑に地域生活を始めることができる環境づくりが求められる。
- 特に、東京都が設置した避難所の1つである「旧グランドプリンスホテル赤坂」には1,000人近い避難者が生活したが、不慣れな地域での生活であることに加え、6月30日までに退去を求められていたことから、その先の暮らし及び短期間での転居作業に対する不安の解消が必要となっていた。

2 モデル事業の概要

(1) 生活相談の実施

避難所（旧グランドプリンスホテル赤坂）等に相談窓口を設け、生活費や健康、子育て、介護、就労、住居、地域社会での近所づきあいなど、避難者が抱える様々な困りごと、不安に対する相談を受け付ける。

- (2) その内容に応じて、公的機関や区市町村社協、子育て等の住民グループなどにつなげることや転居の支援を行うことで、避難者が円滑に地域生活を始めることができるよう支援する。

3 マルチステークホルダーの概要（役割分担等）

(1) 東京都都市整備局及び総務局

避難所の設置者及び避難者の都内受入支援担当として、事業の企画・運営や避難所施設管理者との調整などを行った。

(2) 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

相談窓口の設置、相談への対応を行うとともに、避難先区市町村の社会福祉協議会との連絡調整を行った。

(3) 赤帽物流株式会社

転居に関する相談を受け付け、作業面での支援を行った。

4 実施事業の詳細な内容

(1) 避難者からの相談窓口の設置、運営

避難者が抱える様々な困りごと、不安に対する相談を受け付け、内容に応じて、公的機関や区市町村社協などに問い合わせ、相談者の紹介を行った。

- 窓口設置期間：6月15日～30日

- 相談件数：110件

* 6月15日から30日までの相談体制（単位：人）

6月	15日	16日	17日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	計
午前	2	2	2	4	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	32
午後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	28

(2) 避難所（旧グランドプリンスホテル赤坂）からの転居支援

運送業者（赤帽）と協力して避難所からの転居の支援を行い、避難者が円滑に地域生活を始めることができるよう支援した。旧グランドプリンスホテル赤坂からの退去期限である6月末日までに、339部屋すべての入居者の転居を終えることができた。

- 転居作業受付・実施日：6月20日～30日及び7月20日、21日、31日
- 転居作業件数：335件

5 事業実施上の課題

- (1) 旧グランドプリンスホテル赤坂での相談活動が6月の下旬の短期間であったため、入居していた339部屋の避難者にアウトリーチして丁寧に避難生活の状況を聞きながら、その段階で抱えている不安や問題を把握することができなかった。本来であれば、転居後の生活課題だけでなく、避難生活における課題をくみ取り、関係機関、団体との連携のもとで、課題解決の取り組みを進めることが必要であった。
- (2) 転居先の区市町村での地域生活についての不安を聞き取り、その解決のための情報提供、関係機関・団体へのつなぎを行ったものの、電話での連絡が中心となってしまう、避難者と転居先の区市町村でのキーパーソンとなる人をつなげることまでできなかった。

6 モデルとしての他のNPO・行政等に紹介する仕組み

- 避難者の避難生活の基盤を提供する自治体、住民の生活課題を把握し、関係機関・団体につなげる社会福祉協議会、個別のニーズに対応した転居作業を行う事業者が協働することで、避難者が安心して東京で避難生活を送ることができる環境を提供することができる。

7 平成25年度以降の予定

- 平成23年度ですでに事業終了